

気をつけましょう

豚

◎子豚に新鮮土を

子豚のキバは母豚の乳房を傷つけ、授乳をきらう原因になるから最初の哺乳までに上下8本のキバをニッパ一、剪定鋏などで歯根部から切り取ってやる。又子豚の成長に関係の深い鉄分などの補給をはかるために新鮮な土を浅い箱に入れ、自由になめさせるよう生れた翌日から与えよう。土には抗生物質など未知成長剤が沢山含まれており、最近行われている鉄剤の注射やなめさせるよりも、むしろ効果があるといわれている。

◎自給飼料の増産給与

2月以来濃厚飼料の価格が1円から1円50銭あがり、今後も高騰の傾向にあるが、これからの養豚経営は自給飼料30%、少なくとも10%以上の生産がなければ安定しない。畑作地帯での甘藷の作付けと放飼により肉豚肥育の効果をあげよう。

肉豚を肥育する場合、最近の成績では、飼料の含有成分が次のようになる飼料給与をした方が一般的によいといわれる。

体重	DCP	TDN
20-50kg	11.0%	70.5%
50-90kg	10.5%	69.5%

鶏

◎魚粉使用の考え方

養鶏用飼料として、魚粉をどうしても与えなければならないとか、魚粉がないと飼料として重大な欠陥がでるといような決定的な証拠は今日までのところまだ得られていない。魚粉がなくても、栄養素のバランスに十分注意すれば、よい成績をあげることが出来る。これが魚粉使用の基本的な考え方にならなければならない。このような基本的な考え方からして、魚粉を使用するかどうかは次のことがらとあわせ考えた上で決定すればよい。

① 経済的に検討する。

魚粉の使用は主に価格によって決める。魚粉は植物油粕に比して、蛋白質だけでなく、アミノ酸、ビタミン、無機物、エネルギーなどの点ですぐれているから、これを全部考えて比較すべきであって蛋白質だけで比較するのは不十分である。

② 魚粉による安全性を考える。

栄養素のバランスについては、まだわかっていないことも多い。そこで魚粉のような良質の飼料を一部配合しておけば安全で、5%も配合してあればメチオニンやビタミンについてはあまり心配しなくてもよい。

③ 未知の効果があるかもしれない。

魚粉にはまだわかっていない何かが含まれているかもしれない。そこで魚粉が非常に高価な場合を除いて、配合した方が安心である。